

# 第4学年\*組 国語科学習指導案

場 所 4年\*組 教室  
指導者 奥沢 志乃

確かな学力を身に付け、進んで学ぶ子どもの育成をめざして  
～ 教えて考えさせ、新たな学びへ ～

- 1 単元名 文字の中心と外形との関係を知ろう 「天空」
- 2 単元の目標
  - 用具の準備や姿勢・執筆に気をつけながら文字の中心と外形との関係を理解して書いている。  
(関心・意欲・態度)
  - 文字の中心と外形との関係について、学習の成果と課題を確認することができる。  
(思考・判断)
  - 基本点画の筆使いや組み立て方に気をつけて書くことができる。  
(技能)
  - 基本点画の筆使いや文字の組み立て方、文字の中心と外形を正しく理解することができる。  
(知識・理解)
- 3 本時の指導 (本時は、5 / 5)
  - (1) 目標
 

用具の準備や姿勢・執筆に気をつけながら文字の中心と外形との関係を理解して、まとめ書きをすることができる。
  - (2) 展開

学習活動	学習形態	指導と評価 (◎テーマとのかかわり)
1 筆順を確認し、試し書きをする。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆の持ち方や姿勢などの基本事項について試し書きをする前に確認する。</li> </ul>
2 本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「天空」の形やバランスを整えてまとめ書きをしよう。</div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に書いた「天空」の試し書きと練習後の字をもとに本時のめあてを確認させる。</li> </ul>
3 まとめ書きをする。 ○画の長さや方向  ○文字の中心と外形	個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎まとめ書きをするにあたり、かご字の練習を希望する児童には、無理にかご字の中を塗って埋めるような練習にならないように呼びかける。文字の太さについては、あくまでも目安とし、かご字より多少細くなくても太くなくても問題ないことを事前に知らせておくようにする。</li> <li>・「天」は、一画目の「横画」は二画目より長く書き、方向の違いにも注意させるようにする。また、左右の「払い」は「横画」より長く書き、「払い」の方向にも気を付けさせるようにする。</li> <li>・「空」は、六画目より八画目の「横画」を長く書き、方向の違いにも気を付けさせるようにする。</li> <li>◎まとめ書きをするにあたり、組み立て方と骨書きを合体させた練習を希望する児童には、それぞれの部分の外枠からはみ出さな</li> </ul>

<p>4 自己評価・相互評価をする。</p>	<p>個人 ↓ 一斉</p>	<p>いことと、骨書きをだいたい画の中央と考 えてなぞるようにすることを意識させるよ うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「天」は、三・四画目の始筆（接するところ）が文字の中心となり、外形は、下が広い形を意識させるようにする。</li> <li>・「空」は、一・七画目が文字の中心となり、外形はだいたい真四角になるように意識させる。</li> <li>・「天」については、「横画」「左払い」「右払い」の筆使いに注意し、「トン」「スー」「ピタ」などの擬音語を用いて確認するようにする。「空」では、「点」「払い」「曲がり」の筆使いに注意し、上下の組み立て方に気を付けるように随時、声かけを行うようにする。</li> </ul> <p>◎自分のめあてへの達成感やそこへ向かって努力したことへの満足感を得られるようにする。また、友達同士の良さを認め合ううえで、書いた文字の成果だけではなく、取り組みの様子なども評価し合えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【評価】</b>          用具の準備や姿勢・執筆に気をつけながら文字の中心と外形との関係を理解して、まとめ書きをしている。          （作品・発表）</p> </div>
------------------------	------------------------	---